街の明かりとカクテル　夜の都会ビルの一室で・・・・義母と息子たち

義母と息子グループ・・・男女四人を乗せた車は都心の道路を走っていた。

街は夕方から夜に変わっていき、道路に立ち並ぶ多くの建物に明かりが光りはじめている。

これから義母のミユナは、セフレ仲間のママ友と一緒に息子とその友人とビルに向かう。

・・・・・ホテルというより妙に怪しいビル。下の階は使われておらず上階だけがホテルになっている。

スマホで計画を立て、エッチな夜への準備は整っている。

・・・・・・・・・・。

助手席に乗っているママ友の名前はリナコ。

ドライブも楽しみながら・・・・運転する義母は前方を指さした。

お洒落な洋服屋などが立ち並んでいる
商店街。

・・・・・・・・・・・・・・。

「もうすぐホテルに着くわ・・・・」

街の明かりはすぎ去っていく。

これから始まる長い夜にとっても楽しみそうに助手席のリナコがジーンズの足を組みかえた。

・・・・・・・・・・・・・。

いつもはこの日の男女四人だけでなく他のセフレたちも混じり合ってベッド

の上で淫靡なことになっている義母義理息子たちだが、この日は少し久々の都心。

・・・・・・・・・・・・・・。

小旅行。

ホテル街は街の西の端の方にある。

ホテル街にはのどかな草むらや田畑が
広がっている。

穏やかな夜の月の下の静かで平穏な
夜・・・・。

それらをゆったりと見守るためのものだ。

ジーンズの上、カラダに密着したＴシャツの腰あたりの裾（すそ）を指でなおす義母のママ友。

ムッチムチの太ももがホットパンツか

ら出ている。

「さぁっ！今夜も元気いっぱいするわよっ！」

義母とママ友は腕まくりをしてホテルを見た。

ホテルの玄関先。少し高台になっている。周囲は森林。

周囲にも同じようなビルがいくつかある。立ち並ぶゴージャスで大きなホテルは明るいようで不気味。

とても長そうな夜を予感させた・・・・・。

・・・・・・・・・・・・・・。

男女四人の足取りは健康的。

ピンクとこげ茶色が微妙なバランスでいり混じった薄い色のエレベーターの壁。

上階まで上り、大き目のツインベッドの寝室へ四人は到着。

・・・・・・・・・・・・・。

窓の外は、さわやかな都心の雰囲気を楽しむのに十分。遠くに綺麗な夜景の街が見える。

俺たちの胸は弾んでいた。

・・・・・・どこまでも開放的になれる。

身にまとったもの全てを脱ぎ捨てて・・・・・・。

透明ガラスのテーブルの上のデジタル時計が午前３時を示している。

布団の上の四人の男女によるハダカのスポーツがひとまず終わったあと、四人は一息ついていた。

もちろんいくつもの大きな起伏があった。

（体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました）